

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873200422		
法人名	聖北会有限会社 敬七商事		
事業所名	グループホーム すずらの里	ユニット名	1丁目
所在地	〒319-0204 茨城県笠間市土師1283-252		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873200422-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年9月3日	評価機関 決裁日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームすずらの里では住み慣れた地域で安心して暮らせるようにとの理念の下（自立の支援 尊厳の保持 介護の質の向上 健康の維持 意思の尊重）ご利用者様それぞれのペースを尊重しゆったりと家庭的な生活ができるよう支援に努めて居ります。おふろは都合の良い日に入ることが出来るよう毎日行っております。排泄は出来る限りいつまでもトイレでできるよう支援しています。外出は全員で出かけたり希望を聞いて個人個人で出かけたりしています。また、毎日、レクリエーションの時間を設けて職員とのコミュニケーションを図りながら楽しいひとときを過ごされています。訪問看護師による健康チェックや定期的な受診の支援で安心して過ごす事が出来ます。食事はカロリー計算されたメニューを、毎日職員が手作りしています。今後共地域 家族 職員が連携を取り合いご利用者様の幸せを願って支援して行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は栗林がある自然豊かな場所に立地している。
管理者や職員は理念の実践に努めるとともに、利用者に対してやさしさと思いやりを持ちながら明るく接し、利用者本位の支援をしている。
利用者の状態が把握し易くなるよう、業務日誌を午前、午後、夜間とボールペンの色を変えて記載する工夫をしている。
事業所には車いす対応の特殊浴槽と通常の浴槽が備えてあり、利用者全員が毎日入浴ができるよう支援している。
法人系列の医療機関があるため緊急時の連携が図られており、利用者と家族等の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時と、毎月の全体研修時の最初に必ず理念を唱和共有し、介護の中に活かすよう努めている。全体研修時やケアの途中で気づいたその時々理念の意味を学習している。	理念は管理者と職員で話し合っ作成しており、「利用者様が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援いたします」のほか、「自立の支援」や「尊厳の保持」、「意思の尊重」、「健康の維持」、「介護の質の向上」を謳い、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。 理念を各ユニットの事務所に掲示するとともに、職員は毎朝の申し送り時に唱和して共有を図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて町内の空き缶拾いに参加させていただき交流を図っている。また、利用者の外出時には地元の店で買い物をしたり、介護用品を遠くの店で買うのをやめ地域の店に宅配をお願いし馴染みの関係を築くよう努めている。	職員は市が主催する清掃活動に参加している。 利用者は職員と一緒に地域の神社の夏祭りに出かけ、子ども神輿を見物したりしている。 事業所主催の敬老会や秋祭りに案内状を近隣住民に配布するなどして地域住民との交流に努めているほか、事業所は近隣の在宅生活困難者の相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や、来所時に介護について悩んでいる方には、折に触れ集めているパンフレットを差し上げたり悩みを聞いてアドバイスをしたり相談機関等を紹介したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果が出た時点で運営推進会議に図り今後の取り組みや相談等し一緒に考えてもらっている。また、地域の資源等教えてもらってお花見の場所など決めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や運営状況、今後の予定を報告するとともに、時の話題を話し合ったり、委員から運営についての意見を聴き、出た意見等を全職員で検討してサービスの質の向上に活かしている。 これまでは事業所の行事案内を開催日の1週間から2週間前に近隣住民に配布していたが、委員より「参加人数を増やすため行事案内を従来より早めに配布してはどうか」との提案を受け、1ヶ月前に配布するように変更している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の運営について分からないことや疑問など分かるまで担当者に聞いたり更新申請などで出向いたときは担当者以外とも言葉を交わし施設の情報を伝えている。	管理者は市担当者に介護保険法改正に関する問い合わせをしたり、市主催の防災会議に参加したりしているほか、利用者の福祉用具利用や年金について、市の担当部署に相談している。 生活保護受給利用者については市担当者とともに連絡を取り合うなどして連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングの中で勉強会を行ったり仕事の中で疑問に思った時や気づいた時などは管理者 職員はお互いに注意し合ったりしている。館内を歩かれたり外出しそうな利用者さんの見守りは全ユニットで行うよう情報共有を行い本人の、ペースに合わせ外に出てみたり話し相手になったりするように努めている。日々の介護の中で気づきがあればお互い注意をし合っている。	身体拘束排除に向けた研修会を定期的実施しており、全職員が身体拘束の具体的な行為や弊害を理解している。 皮膚疾患があり身体を掻いてしまう利用者の場合でも、ミトンやつなぎ服などを使用しないで済むよう身体拘束排除委員会などで検討しながら、身体拘束をしないケアに努めている。 玄関は原則として夜間や早朝以外は施錠しておらず、利用者は職員の見守りのなか、玄関前に設置されている自動販売機を利用したり、近所に散歩に出かけたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば順次職員を参加させている。内部でも全体研修の機会に「高齢者虐待防止法の理解」の資料を基に勉強会を行ったりケアの時に疑問に思ったことはそのままにせず、相談したり声掛けし合ったりして日々虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援制度を利用することで家族本人共に安心して過ごせるような状況が見受けられた時や家族から今後の不安について相談された時には早めに関係機関に相談したり関係者が来訪時等に相談し早めの対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には重要事項説明書運営規定等を良く説明し疑問があれば納得できるまで説明している。今後のサービスに対する要望や不安意向など聞いてケアに活かしている。改訂の際には事情を説明し理解納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りの中で利用者1ヶ月の様子を知らせ、家族からの意見や要望を伝えることが出来るよう返送の欄を設け手紙か、苦情受付箱に投函して下さる様お願いしている。また推進会議出席時や、来所持に声掛けして要望意見等を伺ってサービスに反映させている。	玄関に意見箱を設置している。 利用者からは日常のふれ合いのなかから、家族等からは電話や面会時に話を聴いている。 家族等から出た意見を受けて職員の名前がわかるよう名札を付けた結果、家族等と職員との会話が弾むなど、コミュニケーションづくりに役立っている。 4月から事業所便りに意見欄を設け、家族等の意見や要望を汲みあげるよう努めているが、返信用封筒を同封していないため返信されるまでには至っていない。	返信用封筒を同封した無記名の家族アンケートを実施し、家族等の意見や要望を汲みあげるよう取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体研修時には代表者の出席を求め、できる限り意見を聞いてもらうようにし代表者側も意見要望を伝える場としている。職員の意見要望については、即答が出来ないときは次の機会等に返答をお願いしている。	代表者や管理者が参加する月1回の全体会議で、職員の要望や提案を聞いているほか、管理者はいつでも職員の意見等を聞くように努めている。 「利用者の経済的な負担を軽減するため、尿取りパッドの使用量を減らしたい」との職員からの提案を受け、同一法人で行われたおむつの業者による説明会で情報を得るとともに、ユニットカンファレンスで検討して吸収率のよい製品を使用することとし、パッドの使用量削減につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には、管理者が現場の様子を伝えたり全体研修の出席時に直接訴え、手当ての新設や休暇取得をしやすい環境づくりに努めている。時々、職員同士の親睦会を開いて気分転換の機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、順次職員のケアの向上の為参加させている。研修後には報告書を提出してもらい全員に伝わるよう回覧している。新人職員には責任者を決め指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の会議のときに他事業所の話を知ったりしている。関連事業所での介護研修に行ったり、研修に参加させてもらったりしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が見学に見えられない時には直接出向いて面談し、ホームでの生活の様子やサービスの内容等伝えたり本人の望む暮らし、不安等聞いて安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から、介護についての悩みや本人の状況等聞いてその後入所までは電話等で連絡し合っ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談に見えた時には本人や既に利用しているサービス先の関係者に話を聞いたりしてグループホームへの入所が適切かどうか見極めて本人にとって一番相応しいサービスとは何かを考えている。他のサービスが適切かと思われた時はアドバイスや問い合わせ紹介等を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寡黙な利用者さんの思いを察し個別に話しかけたり、出来る限り孤独感を感じることが無いように個別に話をしたりスキンシップを心がけている。また、得意の分野を發揮してもらうよう個別に把握し、お願いしたり教えてもらったりしているが無理強いはしないようにし本人の思いを大切にしよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を電話やおたよりで知らせたり、ケアについて協力相談を求めたり本人がより良い生活が送れるように家族と共に支えていくように努めている。また、電話口で本人にでてもらったり、こちらから電話をつないで声を聞かせて安心してもらったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や、近所の知り合い等が尋ねてきたりした時はお茶を勧め、居室でゆっくりして頂いている。時には、職員も一緒に話の仲間に入って昔話を聞いたりしている。後日家族には面会があったことを伝えるようにしている。	家族等の協力を得ながら、入居前から利用していた馴染みの理髪店の継続利用を支援している。 職員は利用者が近所にある行き付けの商店で買物ができるように付き添っている。 利用者の要望にそって墓参りや自宅跡地をドライブができるよう支援している。 利用者の家族等や友人が来訪した場合は、居室でゆっくり話せるよう、お茶を出すなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士やお世話を焼いて下さることが生きがいになっている人など考慮しテーブルの座席の位置を決めお互いが支え合って生活できるよう努めている。また、他のユニットの利用者の顔が分かるよう朝の散歩は同じ時間帯に行い挨拶や言葉を交わすことが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院に様子を見に行ったり他施設に転所された利用者さんには、行事に招待したり家族に当てお手紙を書いたりしている。また、分かる範囲でお悔やみに伺うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	相談、入所時に本人の希望意向を聞き取るよう努めている。本人より聞き取り困難の時には入所後に生活の様子や会話の中から本人の望む暮らしとは何かを把握するよう努め本人本位に支援できるようにしている。	職員は利用者との日々の会話から一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握するとともに、申し送りノートに記録して共有している。意思疎通の困難な利用者に対しては、筆談や普段からの表情やしぐさ、態度を観察して思いの把握に努め、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴を記入できる個人表をお渡ししている。職員全員が情報を共有できるようファイルに閉じている。また、契約時差し支えない程度に家族より聞き取っている。以前に利用のサービス状況は事業所より情報提供をお願いし状況を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の暮らし方を家族等から聞いて本人の思いや希望を尊重した上で出来ること出来ないこと得意なこと等把握するよう努めている。職員は毎朝の申し送りでは心身状態の変化についての把握に努めチームで共有し一日の過ごし方について考え支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時には本人家族の意向、介護職員の意見や気づきを反映させ本人主体の計画書の作成を行うよう努めている。モニタリングは月一回のカンファレンスの意見を参考に介護職員ケアマネで行っている。	利用者や家族等の要望を聞き、介護支援専門員の資格を有する計画作成担当者と職員で介護計画を作成しているほか、毎月カンファレンスを実施して利用者の状況を確認するとともに、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時モニタリングを実施し、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、実践した事結果等また食事、排泄、入浴の状況を記録し情報の共有を図っている。受診時は個人記録のほか専用のノートを作って出勤時必ず確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて納税や医療用具の申請、金融機関に家族共々送迎したりして利用者家族が安心して暮らせるよう努めている。また高齢の家族の来所時に駅や自宅までお送りすることもある。選挙券が送付されて来る利用者さんには同行して投票が出来るよう支援している。家族利用者が言い出しやすい雰囲気が作れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の時に祭りや市の施設の情報などをもらっている。お花見の場所や初詣の神社の安全性等も教えてもらっている。地域の消防署には避難訓練や救急救命の研修に来て頂いている。介護用品支給券を使った購入は地域の店を利用し家族に代わって購入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族には契約時にかかりつけ医に継続受診できることを伝えているが、協力病院に変更になる場合には家族を通じてかかりつけ医より診療情報を頂いて協力医に伝えている。かかりつけ医に受診継続の時は家族の同行が基本となっているので普段の状況を看護師や職員は詳しく伝えるようにしている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は原則家族等が付き添うこととなっているが、家族等が受診に付き添えない場合は職員が付き添っている。 家族等から受診結果の報告を受けているほか、職員は電話などで家族等に受診結果を報告している。 協力医療機関での定期的な受診を支援しているほか、週1回訪問看護事業所の看護師による健康管理を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問日には健康状態の把握を行ったり状況によって受診を勧めたり自ら受診介助をして医師に病状の説明などを行っている。また、感染症の予防の方法などその時々に応じてアドバイスももらっている。夜間の状況の変化時は電話で相談し指示をもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族に代わって洗濯の支援を行っているので看護師ソーシャルワーカー等と相談できる機会があるので治療の経過や本人の様子等聞くことができる。情報は家族と共有し合うよう連絡をおこなっている。退院の件については主治医に直接聞いたり看護師ソーシャルワーカーを通して時期について聞いてもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を基に家族と話し合いその時点での意向書を作成している。意向の変更があれば変更が出来ることを伝えている。	事業所は看取りを行う方針で、「重度化した場合における（看取り）指針」や「重度化した場合における対応に関する同意書」、「終末期に対するご意向」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 最期を迎える場所や終末期ケアを希望する、しないなどの意向の変更はいつでも可能となっている。 職員に看取りに関する研修会を実施したり、話し合いの場を設けたりして、意識付けを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時は夜間想定を繰り返し行ったり消防署の協力を得て蘇生法の研修を行っている。夜間の救急対応についてはマニュアルを作成し内部の研修で確認し合ったりしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時に地域の消防団に所属している方に出席してもらい情報を得たりホームのアピールをお願いしたりしている。年2回の消防訓練には、地域の代表に参加してもらったりして災害時の協力をお願いしている。	年2回消防署立会いのもとで夜間想定を含めた総合避難訓練を実施しているほか、近隣にある法人系列の特別養護老人ホームと合同の避難訓練も実施し、協力体制を構築している。 近隣には住宅が無いため、避難訓練に近隣住民の参加を得ることはできないが、地元消防団員の参加は得ている。 避難訓練の結果を記録するとともに、課題や反省点を話し合い、検討して次回の訓練に活かしている。 災害時に備えて食料や飲料水、おむつ、寝具などを備蓄しているが、リストを作成して管理するまでには至っていない。	備蓄品のリストを作成し、定期的に確認して在庫数や賞味期限などを管理するとともに、賞味期限が迫っている備蓄品で避難訓練後に炊き出しを実施するなど、実践に役立つような工夫を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗や、朝の申し送り時の声の大きさに気をつけて個人が特定できないように注意を払っている。理念に尊厳の保守を謳って毎朝唱和している。意味について研修時に話しあったりケアの中で不適切なことが見られた時はその都度話し合っって軌道修正している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄支援や入浴支援では目立たずさり気ない言葉かけや対応に努め、利用者の尊厳を大切にしながらプライバシーを損ねない対応をしている。 契約書などの個人情報に関する書類は、書庫の鍵がかかる書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が表出できない利用者様に対しては様子や表情を見て声掛けし、ユーモアを交えたりして言い出し易い雰囲気作りに努めている。表出できない利用者様に対してはいくつかの選択肢を提言しその中から自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを尊重しその日の体調や気分に合わせて過ごして頂いている。仕事のお手伝いや、休息、テレビ鑑賞、塗り絵等本人の希望にそって過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重しながら、朝の着替え時に選ぶお手伝いをしたり外出時や行事の時には気分転換が出来るよう職員と一緒に洋服を選んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンから食事の支度をしている食器の音や良いにおいを感じながら期待感を持って待つ楽しみ。一人一人の食事能力に合わせた調理の形態で皆で同じものを召しあがっています。テーブル拭きや皮むき、メニュー書き等出来ることに参加していただいています。	宅配業者からカロリー計算された献立の食材が届き、利用者の嚥下能力に合わせて事業所で調理をしている。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳などの役割を担っている。 職員は利用者と同じテーブルに着き、食事介助や見守りの支援をしている。 七夕祭りなどの行事では、利用者の希望を取り入れて握り寿司やノンアルコールビールを提供しているほか、近所の食堂から出前を取るなどして食事が楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量のチェックを毎食行っている他、食事時には一緒に席について飲み込みや食事の進み具合の変化などに気を付け見守っている。食欲不振が見られた時には、看護師介護職が継続して見られるよう情報の共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は就寝前にはずしてもらい消毒しています。歯ブラシ口ゆすぎコップはいつでも使うことができるよう目に付く所においています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄をモットーにし日中は全員がトイレでの排泄をされている。夜間は、能力に応じて排泄の手段を決めるようにして出来る限りオムツの使用をせずポータブルトイレを使用したりトイレ誘導などを行なっている。	職員は利用者毎に排泄記録表を作成して排泄リズムを把握するとともに、適切にトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。 昼間は布パンツを使用している利用者でも、夜間は安眠できるよう紙パンツとパッドを使用するなど、利用者一人ひとりと相談しながら希望にそった支援をしている。 排泄の自立に向けて居室にポータブルトイレを配置したり、歩行可能な利用者の場合は夜間もおむつを使用せず、トイレ誘導をしてトイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師介護者が連携を取って排泄チェック表を活用し定期的な排便が出来るよう心がけている。乳酸菌飲料や牛乳の宅配を利用したり定期的に歩く時間を設けたりラジオ体操を全棟で行って個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っているので体調や気分に合わせて入浴をすることが出来ます。車椅子の方には特殊浴槽でゆっくりと肩まで温まってもらっています。入浴剤を使ったり、季節感を感じられるような菖蒲湯やゆず湯なども行っています。	入浴は利用者の入りたい時間を優先するとともに、毎日入浴ができるよう支援をしている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間を変えたり職員を替えたりして、気分の良い時に入浴ができるよう支援している。日常的に沐浴剤を使用したり、柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れたりして入浴が楽しめるように支援している。車いす対応の特殊浴槽を設置しており、車いす使用の利用者も不安なく入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の習慣や本人の希望を大切にし昼寝や休息等して頂いています。夜間に寝付けない方には日中の過ごし方に気を配ったり、夜勤者は飲み物を出したりお話し相手になったりして眠剤は殆ど必要とされません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の最新の処方箋は個人ファイルに閉じいつでも見られるようになっている。薬変更があった時には受診ノートや個人ファイルに記入している。服薬は責任を持って行えるよう与薬者は押印を行っている。薬効や副作用については看護師が中心となって観察を行い介護職と情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意分野、好きな食べ物等は家族に聞いたり個人表等を参考にしたりして、メニュー書きや洗濯たたみ野菜の皮むき等お話し感謝と感嘆の言葉を伝えている。嗜好品は家族や本人から希望を聞いたり声掛けしたりして個別の楽しみを持つことが出来るよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誰でもが外出の機会を持って気分転換が出来るよう計画したり、個人で希望があれば買い物や食事に出かけられるように努めています。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、近隣にあるJA直売所や市内の洋品店に買い物に出かけられるように支援している。 年間の外出計画を立て、花見やりんご狩りなどを楽しめるよう支援している。 少人数毎に近隣をドライブし、ラーメンなどの外食を楽しめるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお財布を持って大事に管理している方はいるが実際に使う時には事業所での預かり金が多い(持つことの安心感や楽しみとしている様子)。使う機会がある時は出来るだけ社会性の維持ができるよう買うもの食べたいものを選ぶこと支払うことに少しでも関わられるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が疎遠になっている方には電話を掛けたり取り次いだりして声を聞かせている。暑中見舞いや年賀状には一文字でも本人の直筆が見られよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの和室の障子を開けると四季折々に変化する木々の風景が見られたり、せみの声鳥の声等も聞くことが出来る環境に囲まれています。玄関先にはベンチテーブルが置いてあり自然の中でゆったりとした雰囲気を楽しむことが出来ます。	玄関や廊下、居間などの共用空間には利用者が制作した手芸品や工作物、季節の花などが飾られ、生活感と温もりが感じられる空間となっている。 新聞を購読して居間で読むことを日課としている利用者があるなど、職員は共用空間でも利用者が自由に過ごせるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	疲れてしまった時や一人で過ごしたい時は、玄関ホール椅子やリビングのソファ等また居室で自由に過ごされている利用者さんも居られる。気の合う同士でジュースを買って飲みたい時は外のベンチに座ってゆっくりと過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には出来るだけ自宅で使っていた衣類や寝具などを持参して頂くようお願いしています。	居室にはエアコンやカーテン、ナースコール、押入れが備え付けられている。 洋室と和室の居室があり、利用者の希望で選ぶことができる。 利用者は居室にテレビや扇風機などの電化製品のほか、位牌や家族の写真、手作り品、衣装ケース、愛読書など大切な物品や馴染みの物品を持ち込んでおり、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関での靴の履き替えが安全に出来るよう椅子を置いたり居室のドアに本人の好みの目印を置いたりトイレの看板を分かりやすくしたりして住みやすい環境づくりに努めているいます。館内はバリアフリーになっており手すりも利用し毎朝の館内散歩で他棟の利用者さん達と挨拶を交わしたり下肢筋力の低下の予防が出来たりしています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム すずらんの里

作成日 平成25年12月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	毎月のお便りに返信欄を設け意見や要望を投函して下さる様お願いしているが反映されていない。	サービスに反映できるように意見要望を出し易いような方法で家族の声を聞かせて頂く。	アンケートを作成し、年に数回返信用の封筒に無記名で意向や不満等が聞けるような体応をして行く。	2ヶ月
2	35	総合訓練時は避難訓練を主に行っており実践的な訓練は行っていない。	備蓄品の賞味期限切れの品などのチェックを兼ね実際に炊き出しを行い実践に役立つような訓練とする。	訓練計画を夜間想定 of 避難訓練と共に、炊き出しの計画を立て地域消防団、同敷地内の特養などと連携を取り行う。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。